

水素ステーション実証モデル事業について

企業局

1 事業概要

- 将来の企業局事業の可能性を見据え、企業局の電気と水を用いた、100%再生可能エネルギー由来の水素ステーション及び燃料電池自動車(FCV)を整備し、水素の生成と利活用を通じた、水素エネルギーの実証モデル事業を推進
- 水素エネルギーの利活用による脱炭素社会構築や産業振興に向けた関係部局や民間企業が行う取組みに参画

| 主な検証・取組項目 | 具体的な内容 |
|---------------------------|--|
| 再生可能エネルギーの安定供給や付加価値拡大の可能性 | 余剰電力を水素に変換・長期貯蔵することが可能となる水素ステーションを整備することで、蓄電機能による再エネの不安定性の解消や収入増の可能性の研究 |
| 災害時の電源供給の有効性 | 照明、携帯充電等の電源としての有効性の検証(防災訓練等) |
| FCVの活用 | FCVを導入し、CO ² 削減による環境負荷軽減や利便性の検証 |
| PR効果 | 再生可能エネルギー由来の水素エネルギーの普及・啓発(開所式の開催、信州花フェスタ・G20関係会議等での活用、こども記者体験、地元企業等との共同利用など) |
| 人材育成 | 研修施設としての活用(高压ガス製造保安責任者の資格取得に係る実務経験(6ヶ月)、短期的な研修等) |

<実証モデル事業のスキーム>



- 軽井沢町で開催される G20 関係閣僚会合において、長野県を環境先進県として PR
⇒長野県の水と水の恵みによる再生可能エネルギーから製造された水素を燃料として動く FCV (燃料電池自動車)を活用すること等を想定
- G20 開催を契機とした水素エネルギー活用・研究などの普及啓発活動
⇒FCVを公用車として活用し、普及啓発活動を行うほか、趣旨に賛同いただいた地元企業等と連携し、PR活動などを条件にFCVへの水素燃料提供などを想定

県内初の水素ステーション設置、FCV導入を契機に
長野県内の水素エネルギーの利活用を強力に推進

(参考) G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する閣僚会合

※G20 は、主要国首脳会議(G7)参加国・機関のほか12か国の首脳が参加して毎年開催される国際会議。2019年は我が国が議長を務め、G20の関係閣僚会合の一つとして、世界の持続可能な成長に向けてエネルギー転換と地球環境について実施する。

- ・日程 2019.6.15～16
- ・開催都市 **長野県 軽井沢町**
- ・参加国 アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、日本、イタリア、カナダ、EU、ロシア、中国、インド、ブラジル、メキシコ、南アフリカ、オーストラリア、韓国、インドネシア、サウジアラビア、トルコ、アルゼンチン
- ・参加者 環境・エネルギー分野の所管大臣及び関係機関(約50名)